



平成 24年 3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 23年 11月 2日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 大阪・東京 各第一部
コード番号 4528 URL(<http://www.ono.co.jp/>)

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)相良 暁
問合せ先責任者 (役職名)常務執行役員広報室長 (氏名)森本 公也 TEL(06)6263-5670
四半期報告書提出予定日 平成 23年 11月 14日 配当支払開始予定日 平成 23年 12月 1日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成 24年 3月期第2四半期の連結業績(平成 23年 4月 1日～平成 23年 9月 30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	70,170	10.0	17,678	35.0	19,191	29.9	8,382	△10.1
23年3月期第2四半期	63,778	△5.1	13,098	△41.5	14,769	△38.7	9,325	△41.4

(注) 包括利益 24年 3月期第2四半期 9,543百万円(354.9%) 23年 3月期第2四半期 2,098百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	79.07	—
23年3月期第2四半期	85.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	424,555	394,564	92.0	3,683.57
23年3月期	424,442	394,572	92.1	3,685.23

(参考) 自己資本 24年 3月期第2四半期 390,531百万円 23年 3月期 390,712百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
24年3月期	—	90.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	90.00	180.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 24年 3月期の連結業績予想(平成 23年 4月 1日～平成 24年 3月 31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,400	7.5	36,200	2.8	38,400	2.3	21,000	△13.3	198.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年 3月期2Q	117,847,500株	23年 3月期	120,847,500株
24年 3月期2Q	11,827,774株	23年 3月期	14,826,407株
24年 3月期2Q	106,020,416株	23年 3月期2Q	108,733,503株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、7ページの「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
①当第2四半期累計期間における業績の概要	2
②研究開発活動	3
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	6
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	7
2. サマリー情報(その他)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 継続企業の前提に関する注記	13
(5) セグメント情報	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13
(7) その他の注記事項	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第2四半期累計期間における業績の概要

当第2四半期累計期間における国内医薬品市場は、後発品の更なる普及・進展による影響に加え、企業間競争も一層激化するなど、引き続き厳しい状況下にありました。

こうした状況のなかで当社は、国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製を目指すとともに、ライセンスによる質の高い新薬候補化合物の拡充に努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みました。また、主要製品を中心とした研究会・学術講演会の積極的な開催や学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたり効率化に努めました。これらの結果、当第2四半期の業績は、以下の様になりました。

(連結経営成績)

売上高	701億7千万円	前年同期比10.0%増
営業利益	176億7千8百万円	前年同期比35.0%増
経常利益	191億9千1百万円	前年同期比29.9%増
四半期純利益	83億8千2百万円	前年同期比10.1%減

・売上高 前年同期比64億円(10.0%)増の702億円

一昨年12月に新発売しました2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、積極的な情報提供活動により売上は期初の計画を上回って順調に推移しました。本剤は本年5月にα-グルコシダーゼ阻害剤との併用療法の効能が、9月にはインスリン製剤との併用療法の効能がそれぞれ追加承認されたことで、現在市販されているDPP-4阻害剤の中では、併用可能な血糖降下剤の種類が最も多い薬剤として、患者さんにより広く選択肢を提供できるようになりました。またグラクティブ錠と同時期に発売しました、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」も、堅調に売上を伸ばしています。

なお、当第2四半期において、7月にアルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」を、さらに9月には、冠動脈CTにおける描出能改善剤「コアベータ静注用」と、4週に1回服用する骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠50mg」を新発売しました。これらの新製品は第3四半期以降、さらに売上に寄与するものと期待しています。

一方で、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」等は、引き続き積極的な情報提供活動により潜在市場の顕在化を図りましたが、後発品の影響などから売上は減少しました。

以上の結果、当第2四半期は前年同期比64億円(10.0%)増の702億円となりました。

・営業利益 前年同期比46億円(35.0%)増の177億円

売上原価については、売上高の増加や、原価率の高い新製品の売上比率上昇により、前年同期比23億円増加しました。

販売費及び一般管理費については、研究開発費を除いた販売費及び一般管理費はコンピュータ関連費用や販売促進費の増加などから9億円増加しましたが、研究開発費がライセンス費用の減少などにより14億円減少したことから、全体としては、前年同期比5億円の減少となりました。

これらにより営業利益は前年同期比46億円(35.0%)増の177億円となりました。

・経常利益 前年同期比44億円(29.9%)増の192億円

営業外収支は、金利収入の低下などから前年同期比2億円減少して15億円となり、経常利益は前年同期比44億円(29.9%)増の192億円となりました。

・四半期純利益 前年同期比9億円(10.1%)減の84億円

保有株式等にかかわる投資有価証券評価損を39億円計上したことから、特別損益は37億円減少しました。また法人税等が16億円増加し、四半期純利益は、前年同期比9億円(10.1%)減の84億円となりました。

②研究開発活動

当社は、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」ことを研究開発理念とし、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に果敢に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて積極的な努力を積み重ねています。

現在、開発パイプラインには、抗体医薬品を含む抗がん剤、がん悪液質の治療薬、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘の治療薬など、がん及びその治療を支持する領域の新薬候補化合物をはじめ、多発性硬化症や骨粗鬆症治療薬の候補などがあり、早期の上市に向けてその開発を積極的に進めています。なかでも、がん治療及びその支持療法の領域は、アンメットニーズが高いことから、当該領域を新たな戦略分野と位置づけ、支持療法を含むがん患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指します。

今後も国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製を目指すとともに、ライセンス導入による質の高い新薬候補化合物の拡充に努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みます。

当第2四半期累計期間における研究開発活動の主な成果は、以下の通りです。

[開発品の状況]

<国内>

- ・本年5月、経口2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」と α -グルコシダーゼ阻害剤との併用療法に関する効能追加について承認を取得しました。「グラクティブ錠」は日本初のDPP-4（ジペプチジルペプチダーゼ-4）阻害剤として平成21年12月に発売しました。本剤は1日1回の投与で選択的にDPP-4を阻害し、活性型インクレチンを増加させることで血糖依存的にインスリン分泌を増強し血糖低下作用を示し、また、食事の影響を受けないことから食前・食後のいずれでも服用可能です。今回の承認取得により、医療関係者及び患者さんに更なる糖尿病治療の選択肢を提供することが出来るようになりました。
- ・本年7月、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」を新発売しました。「リバスタッチパッチ」は、1日1回、皮膚（背部、上腕部、胸部のいずれか）に貼付するアルツハイマー型認知症治療剤としては日本で初めてのパッチ剤です。貼付するという簡単な投与方法ですので、介護者の方の服薬管理のサポートや服薬介助の負担軽減が期待され、また、貼付の有無や投与量を目で見て確認できるため、服薬順守や服薬継続にもつながります。
この度の「リバスタッチパッチ」の新発売により、アルツハイマー型認知症の薬物治療にパッチ剤という新たな選択肢が加わることになりました。
- ・本年9月、冠動脈CTにおける描出能改善剤「コアベータ静注用」を新発売しました。本剤は、主に心臓に多く存在する β 1受容体を選択的に遮断し、心拍数を速やかに低下させる薬剤です。心拍数が高い場合でも、当該検査前に本剤を投与することで心拍数を下げ、冠動脈CTにおいて、より鮮明な画像を得ることが期待できます。
- ・本年9月、骨粗鬆症治療剤で4週に1回服用する経口剤「リカルボン錠50mg」を新発売しました。本剤の1日1回連日経口剤は、「リカルボン錠1mg」として平成21年4月より販売されておりますが、今回承認された「リカルボン錠50mg」は、日本で初めての4週に1回服用する経口剤であり、服薬頻度の低減により患者さんの利便性の向上に寄与できる薬剤であると考えられます。
- ・本年9月、経口2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」とインスリン製剤との併用療法に関する効能追加の承認を取得しました。
インスリン製剤は、進行した2型糖尿病患者さんに広く使用されており、今回の効能追加承認により今後「グラクティブ錠」とインスリン製剤との併用が可能となることで、更なる糖尿病治療の選択肢を提供することができます。

- ・本年9月、選択的ニューロキニン1受容体拮抗型制吐剤「プロイメンド点滴静注用」について、製造販売承認を取得しました。
当社は、平成21年12月にがん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」を発売しておりますが、「プロイメンド点滴静注用」は、「イメンドカプセル」のプロドラッグ化した注射剤です。
がん患者さんの中には、経口剤である「イメンドカプセル」の服薬が困難な方もおられることや、抗がん剤には点滴静注で投与される薬剤も多いことから、これまで以上に患者さんや医療従事者のニーズにお応え出来るものと期待しております。
- ・本年9月、がん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」について、12歳以上の小児への適応追加のため、製造販売承認事項の一部変更承認申請を実施いたしました。
- ・本年9月、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」の速効型インスリン分泌促進剤との併用療法での効能追加を目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。
- ・本年9月、完全ヒト型抗PD-1抗体である「ONO-4538/BMS-936558」の悪性黒色腫を対象としたフェーズⅡ試験を開始しました。

<海外>

- ・本年8月、ヘルシン社（スイス）の米国子会社であるヘルシン・セラピューティクス社が、進行性非小細胞肺癌に伴う食欲不振／悪液質患者を対象とした、anamorelin塩酸塩の臨床最終ステージであるグローバルフェーズⅢ試験での最初の患者登録を行いました。なお、国内では、当社が現在、フェーズⅡ試験を実施しております。（「ONO-7643」）
- ・本年9月、オニキス社（米国）は、次世代プロテアソーム阻害剤カーフィルゾミブについて、米国食品医薬品局（FDA）に再発難治性多発性骨髄腫を適応とする迅速承認申請を行いました。なお、国内では当社が、再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象としてフェーズⅠ/Ⅱ試験を実施しております（「ONO-7057」）。

[創薬提携活動の状況]

- ・本年6月、エボテック社（ドイツ）とのイオンチャンネルに関する創薬提携において、活性や選択性、経口吸収性などに優れた化合物を複数見出すことに成功しました。本創薬提携は平成21年10月に開始しております。両社は、今回見出されたリード化合物を更に最適化し、新薬候補化合物の創製を目指して、提携期間を来年4月まで延長することに合意しました。
- ・本年9月、国立大学法人東京大学と、脂質の網羅的解析（リポドミクス）による新規創薬標的の探索に関する共同研究契約を締結しました。今回の契約締結により、当社と東京大学は、今年4月に株式会社島津製作所と三者で東京大学大学院医学系研究科内に設置した社会連携講座「リポドミクス講座」において、脂質の生体における機能解明を目的とした共同研究を行います。最新の脂質解析技術を用いた本共同研究によって、当社及び東京大学は脂質代謝を基盤とする生命現象や疾患メカニズムの解明への取り組みを通じて、新しい創薬標的を探索します。

[ライセンス活動の状況]

- ・本年9月、セルヴィエ社（フランス）が安定狭心症の適応症で海外で販売し、慢性心不全を対象に欧州医薬品庁（EMA）に効能追加申請中のイバブラジン（一般名）を、日本で独占的に開発・販売する権利を取得しました。イバブラジンは、心臓のペースメーカー機能を担うイオンチャネルの一つであるIfチャネルを選択的に阻害する薬剤で、新規の慢性心不全治療薬になるものと期待しています。
- ・本年9月、KAI社（米国）が維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症を対象に米国でフェーズⅡ試験を実施中のカルシウム受容体作動剤KAI-4169を、日本で独占的に開発・販売する権利を取得しました。本化合物は注射剤であり、透析ルートからの確実な投与と患者さんの負担の軽減が期待される薬剤です。
- ・本年9月、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社（米国：以下、BMS社）と共同開発中の完全ヒト型抗PD-1抗体であるONO-4538/BMS-936558について、BMS社の開発・販売テリトリーを拡大する契約を締結しました。BMS社は北米での権利を、当社は北米以外の全世界の権利をそれぞれ有していましたが、当社はBMS社に、権利を有する北米以外の地域のうち、日本・韓国・台湾を除く地域における独占的な開発・販売権を供与しました。

また、当社は、BMS社の関節リウマチ治療用の生物製剤であるオレンシア（一般名：アバタセプト）を、日本において共同で開発・販売する権利を取得しました。国内では、オレンシアの静脈内投与製剤は平成22年9月に上市されており、また皮下投与製剤は、現在フェーズⅢ試験が実施されています。当社は、静脈内投与製剤の市販後全例調査が終了したのち（平成25年の予定）に、販促活動に参画する予定です。
- ・本年10月、独メルク社に、当社が多発性硬化症を対象に国際共同フェーズⅡ試験を実施中のスフィンゴシン-1-リン酸（S1P）受容体作動薬である、ONO-4641の日本、韓国、台湾を除く全世界における開発・販売権を供与しました。

また、独メルク社が非小細胞肺癌を対象に海外でフェーズⅢ試験を、日本でフェーズⅡ試験を実施中のがん治療ワクチンStimuvax（商品名候補）を、日本において共同で開発・販売する権利を取得いたしました。新たながん治療の選択肢を患者さんに提供していただけるようになるものと期待しています。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

(百万円)

	前連結会計年度末	当第2四半期末	増減
総資産	424,442	424,555	112
純資産	394,572	394,564	△8
自己資本比率	92.1%	92.0%	—
1株当たり純資産	3,685円23銭	3,683円57銭	△1円66銭

総資産は前期末に比べ1億円増加して4,246億円となりました。

流動資産は、有価証券が前期末に比べ77億円増加した事などから59億円増加し、1,972億円となりました。有価証券の増加は、投資有価証券に計上していた債券について、投資期間経過に伴い、償還までの期間が9月末で1年以内となった債券を有価証券に振り替えた事などによります。

固定資産は、投資有価証券が前期末に比べ62億円減少したことなどから58億円減少し、2,273億円となりました。

負債は、前期末に比べ1億円増加して300億円となりました。

純資産は、前期末に比べ8百万円減少し3,946億円となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

(百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減
現金及び現金同等物期首残高	72,097	82,577	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,191	13,611	△1,580
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,358	6,067	1,708
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,789	△9,533	256
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	4	45
現金及び現金同等物の増減額	9,719	10,150	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	81,817	92,727	—

営業活動により獲得したキャッシュ・フローは、136億円の収入（前年同期比16億円収入の減少）となりました。仕入債務14億円減少などのキャッシュの減少要因があった一方で、税金等調整前四半期純利益153億円などのキャッシュの増加要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、61億円の収入（前年同期比17億円収入の増加）となりました。主な内訳としては、有形固定資産の取得による支出が11億円あった一方で、有価証券及び投資有価証券の取得と償還で差し引き72億円の収入がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、95億円の支出（前年同期比3億円支出の減少）となりました。これは、主に配当金の支払によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて102億円増加し、927億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の予想について、平成23年5月11日に公表した業績予想を、下記のとおり修正致します。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想 (A) (前年同期比)	140,000 (3.5%)	35,700 (1.4%)	37,800 (0.7%)	24,500 (1.1%)	231円09銭
今回修正予想 (B) (前年同期比)	145,400 (7.5%)	36,200 (2.8%)	38,400 (2.3%)	21,000 (△13.3%)	198円08銭
増減額 (B-A)	5,400	500	600	△3,500	
増減率 (%)	3.9%	1.4%	1.6%	△14.3%	
(参考) 前年通期実績	135,255	35,200	37,541	24,222	223円88銭

下期も引き続き、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」や抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」などの売上が順調に伸びる見込みで、また本年上期に新発売しましたアルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」や、4週に1回服用する骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠50mg」などの新製品も売上増加に寄与する事が期待されますので、売上は当初予想から54億円(3.9%)増加して、1,454億円となる見込みです。

一方利益面では、研究開発費がライセンス費用などの増加から当初予想比36億円増加の459億円、販売費及び一般管理費全体でも49億円増加の803億円を見込みますので、当初予想比でそれぞれ、営業利益は5億円(1.4%)増加して362億円、経常利益は6億円(1.6%)増加して384億円となる見込みです。

また、特別損失には上期と同額の投資有価証券評価損39億円を織り込むことにより、当期純利益は、当初予想比35億円(14.3%)減少の210億円を予想します。

ただし、四半期における投資有価証券の評価方法につきましては、四半期洗替え方式を採用しているため、平成24年3月期決算におきましては、期末日の時価により、特別損失の計上額が変動する場合、もしくは特別損失を計上しない場合があります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年 9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,445	20,646
受取手形及び売掛金	36,704	35,502
有価証券	103,524	111,259
商品及び製品	7,859	8,784
仕掛品	1,719	1,854
原材料及び貯蔵品	3,468	2,950
その他	15,657	16,249
貸倒引当金	△9	△5
流動資産合計	191,370	197,243
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	65,245	65,583
減価償却累計額	△42,703	△43,285
建物及び構築物(純額)	22,542	22,298
機械装置及び運搬具	15,633	15,675
減価償却累計額	△13,586	△13,782
機械装置及び運搬具(純額)	2,046	1,893
土地	22,551	22,551
建設仮勘定	657	422
その他	10,089	10,217
減価償却累計額	△9,271	△9,278
その他(純額)	817	938
有形固定資産合計	48,616	48,104
無形固定資産		
その他	955	829
無形固定資産合計	955	829
投資その他の資産		
投資有価証券	167,953	161,800
その他	15,552	16,586
貸倒引当金	△4	△8
投資その他の資産合計	183,501	178,378
固定資産合計	233,072	227,312
資産合計	424,442	424,555

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年 9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,324	4,076
短期借入金	1	1
未払法人税等	7,422	6,489
引当金	5,681	5,478
その他	7,767	9,963
流動負債合計	26,198	26,008
固定負債		
長期借入金	12	11
退職給付引当金	454	816
その他の引当金	124	79
資産除去債務	52	52
その他	3,028	3,022
固定負債合計	3,672	3,982
負債合計	29,870	29,991
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	435,536	419,351
自己株式	△74,219	△59,199
株主資本合計	395,754	394,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,162	5,144
土地再評価差額金	△8,938	△8,938
為替換算調整勘定	△266	△264
その他の包括利益累計額合計	△5,042	△4,058
少数株主持分	3,860	4,032
純資産合計	394,572	394,564
負債純資産合計	424,442	424,555

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	63,778	70,170
売上原価	11,182	13,494
売上総利益	52,595	56,675
販売費及び一般管理費		
研究開発費	23,508	22,119
その他	15,988	16,877
販売費及び一般管理費合計	39,496	38,996
営業利益	13,098	17,678
営業外収益		
受取利息	689	586
受取配当金	936	963
その他	325	292
営業外収益合計	1,951	1,843
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	112	178
その他	168	151
営業外費用合計	280	330
経常利益	14,769	19,191
特別損失		
投資有価証券評価損	137	3,853
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	28	—
特別損失合計	165	3,853
税金等調整前四半期純利益	14,603	15,338
法人税等	5,170	6,781
少数株主損益調整前四半期純利益	9,433	8,556
少数株主利益	108	173
四半期純利益	9,325	8,382

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,433	8,556
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,288	985
為替換算調整勘定	△42	2
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	△0
その他の包括利益合計	△7,335	987
四半期包括利益	2,098	9,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,992	9,366
少数株主に係る四半期包括利益	105	176

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,603	15,338
減価償却費	1,469	1,422
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△0
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△159	361
受取利息及び受取配当金	△1,626	△1,550
支払利息	0	0
投資有価証券評価損益(△は益)	137	3,853
売上債権の増減額(△は増加)	1,333	1,201
たな卸資産の増減額(△は増加)	462	△542
仕入債務の増減額(△は減少)	1,332	△1,412
その他	4,484	1,060
小計	22,036	19,732
利息及び配当金の受取額	1,749	1,646
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△8,594	△7,767
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,191	13,611
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△12,803	△17,195
有価証券の売却及び償還による収入	22,300	37,090
有形固定資産の取得による支出	△529	△1,067
投資有価証券の取得による支出	△4,473	△12,845
投資有価証券の売却及び償還による収入	8	176
その他	△143	△90
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,358	6,067
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△0	△0
自己株式の取得による支出	△5	△5
配当金の支払額	△9,779	△9,523
少数株主への配当金の支払額	△3	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,789	△9,533
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9,719	10,150
現金及び現金同等物の期首残高	72,097	82,577
現金及び現金同等物の四半期末残高	81,817	92,727

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社グループは、「医薬品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年4月6日開催の取締役会決議に基づき、平成23年4月13日付で300万株の自己株式を消却いたしました。これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ15,025百万円減少しております。

(7) その他の注記事項

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<p>・当第2四半期連結累計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。</p> <p>・当社は、平成23年4月1日付で、会社経営の安定化をはかるために、退職給付制度の改定を行いました。 この制度の改定は、給付利率の見直しを主な内容としており、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理(企業会計基準適用指針第1号)」を適用しております。 この改定により退職給付債務が3,697百万円減少し、これに伴い発生した過去勤務債務は、発生時より1年間で退職給付費用の控除として処理しております。</p>